

生物学に「赤の女王仮説」というのが
ある。山本太郎長崎大学教授の『疫病と人類』で知った。生物は競争に勝ち、環境に順応していくために、常に進化を繰り返す、という意味だ▼同じ場所にとどまるには力の限り走り続けなければならない。ルイス・キャロルの小説『鏡の国のアリス』に登場する、赤の女王の言葉にちなむ。これに従えば、根絶を目指したウイルスへの圧力は、逆に進化を促すことになるが▼英国で感染力が高い新型コロナウイルスの変異種が急速に拡大、ロンドンなどが3度目の都市封鎖に突入した。水際対策として各国が英国からの航空機受け入れを停止、物流も滞るなど、影響が広まっている▼英国によると感染力は従来の70%増だとか。ただし重症化を示すデータはない。自らの生存には宿主の生存も不可欠なウイルスである。巧みな進化というべきか。幸い、開発が進むワクチンは変異種にも有効と考えられている▼仮説に戻れば、変異するウイルスに対し、人もまた薬の開発など新たな手段を迫られる。しかしこの競争に人は最終的に勝てないとみられている。ウイルスの変異速度が人の技術開発をはるかに上回るからだ。ならどうすれば▼過度の圧力をかけず、緩やかに付き合っただけで感染速度を落とし、弱毒へと変異させる。それがステイホームや自粛、と山本さん。医療崩壊の防止にも不可欠だろう。看護師らの窮状を伝える記事があった。救える命を救えない医療崩壊は私たちに命の選別を迫る。その瀬戸際に立たされている。